

## E-zine 発行者が見た英語俳句の形式議論

墨岡学<sup>1</sup>、田中喜美代<sup>2</sup>、和田武<sup>3</sup>

我々Shiki チームがはじめた英語俳句のメーリングリスト Shiki(1994-2000)と Nobo(2003-現在)の中で議論された英語俳句の形式について報告する。おもに英語俳句表記に関してである。1行か3行か、大文字か小文字か、字下げをするか、しないか。俳句の大切な要素である、切れをどのようにあらわすか。季語はその大切な要素であるが、小論では英語俳句の季語以外の句読点などについての Nobo メーリングリスト内での議論と田中が創作した日本語俳句とその英語翻訳俳句に基づいて考察する。

### A Discussion on the break/caesura and format of Haiku in the Shiki and Nobo lists reviewed by the Shiki team

Manabu Sumioka, Kimiyo Tanaka, Takeshi Wada

We, the Shiki team had started a mailing list of haiku for English named 'Shiki' at July 7th, 1994.

The Shiki list evolved to Nobo list within 'Shiki Haikusphere' website at January 1<sup>st</sup>, 2003. We report the discussion done in the lists about the format of English haiku. One liner or Three liner. How Kire-Ji will be represented in English translation of Japanese Haiku. Ms. Kimiyo shows her own Japanese haiku with her own translation to English haiku how a break works in the haiku style.

#### 1. はじめに

1994年七夕を契機に、我々は、それまで俳句に関してまったくの素人であったにもかかわらず無謀にも英語俳句の世界にかかわることとなった。これは、偶然と必然の産物であることは、参考文献に述べた。ひとり重要な人物の名前と業績を挙げるとすれば、松山商科大学第4代学長(1969-1974)八木亀太郎の言語学研究と英語俳句への傾倒であった。八木先生は、ご存命であればイラン語の専門家であっただけに自衛隊をイラクへ派遣するまでに至った現代日本において果たす役割はもっとあったと惜まれる。

英語俳句に関しての世界で最初のメーリングリスト Shiki list は、シキチームによっ

<sup>1</sup> 松山大学経営学部 ( Faculty of Business Administration, Matsuyama University )

<sup>2</sup> 愛媛大学留学生センター(International Student Center, Ehime University)

<sup>3</sup> 愛媛大学総合情報メディアセンター(Center for Information Technology, Ehime University)

て1994年7月から2000年まで運用された。2003年1月からは名前を正岡子規の幼名にちなんだNobo listとして、同時に新しく開設したShiki Haikusphere (<http://haiku.cc.ehime-u.ac.jp/>) のサイトで英語俳句の投稿とそれについての議論をはじめた。1996年4月にジェーン・ライクホールドによってShiki list に投稿された「俳句定義の一つの試み」は、現在でも引用されることが多い。当初これらのメーリングリストへの参加者のほとんどは米国人または英国人であったが、現在は、米国在住の日本人や日本在住の米国人の参加が増えている。

メーリングリストを俳人たちのコミュニケーションの場としてはじめたが、我々のグローバルな意志は、そこで議論された内容を凝縮しE-zineとして定期的に刊行することであった。メーリングリストをはじめて10年、これは、いまだに実現されていないがなんとか出発点を見つけたい。そのための試みである。

## 2. ライクホールドによる英語俳句定義の試み

1996年4月16日にShiki list にジェーン・ライクホールドによって投稿されたものの一部を引用する。翻訳は『俳句の「場」としてのインターネット』28ページより35ページ。原文は、<http://haiku.cc.ehime-u.ac.jp/~shiki/shiki.archive/html/9604/>の中を参照のこと。

俳句と他の短詩型との区別は何かという質問が出て来るだろう。(中略)

まずその区別の最初はその形である。日本語では俳句は伝統的に5-7-5の音節で成り立つ。すべての言語がこの音節の数を当てはめることが出来るわけではないから、外国語でハイクを書く際にはその言語で5-7-5の音節で書く方法を取るかどうかを決定しなければならない。しかし、もし日本の俳句の形を模倣する方がいいと思っても、日本語俳句の英語訳のものは、音節は少なくなってしまう。(中略)

日本では俳句は縦一行で書く。この点でもわれわれの言語では真似できないこのため、作家たちの中にはできるだけ、出来るかぎりその形に近づけたいということでハイクを横一行で書く人もいる。しかしながら、この形式は日本語にある各5-7-5の区切りでの自然の切れ方を隠してしまう。我々はまた英語の中にその切れ方を聞き取るように訓練されうるけれども、そういう時間とか訓練がないため、行を分けて書くように決められたのである。こういうわけで外国語によるハイクは三行の形式をとるのが慣例になったのである。

ここでライクホールドは「その外国語俳句の切れ方を聞き取るように訓練されうるけれども、そういう時間とか訓練がない」と述べていることに注目しなければならない。俳句作家が集まったの句会の中では、日本人は5-7-5の区切りを日本語が持っている自然のリズムの中で聞き取ることができる。しかし、外国語のハイクでは5-7-5(それに相当するもの)の区切りを聞き取ることはできないのみならず、メールで交換するとき文字列の中に区切りを入れる工夫をしなければならない。もっとも明解

な切れが改行である。しかし、ハイクは1行目と2行目でそれぞれはっきりと2回切れるのではない。「切れ」あるいは「休止」について、ライクホールドは次の有名な古典俳句について、それぞれに英訳したハイクを例にあげ解説している。ハイクを解説するにはそのハイクを詠むことが必要である。

古池や蛙飛び込む水の音  
old pond  
a frog leaps into  
the water of sound

枯れ枝に鴉の止まりける秋の暮れ  
on a bare branch  
a crow settles down  
autumn dusk

切れが分かりますか？切れは1行目か2行目にあります。ライクホールドは「一番避けるべきことは通常の文章の断片であっていわゆる”切れのない文(run-on sentence)”である」として書き換えるべき例を次のようにあげている。

(切れのない例)  
the strange shape  
of the passion flower  
and its legend

(書き換えた例)  
strange shape  
the passion flower  
and its legend

さらにライクホールドは、

日本の俳句では、切れは切れ字で表せるが、切れ字は翻訳では無視されたり、句読点記号などに置き換えられる。(中略)切れを表す方法として、ダッシュ、コンマ、あるいはセミコロンなどが良く使われる。(中略)芭蕉の俳句を英訳したものを声に出して詠むと統語論的に切れがあることが分かる。そういう切れが一番いい方法とみなされている。

と述べている。ライクホールドは、The Constrata Haiku Society の機関紙 Albatross にルーマニア語で65項目のルールを提示し、良い俳句を書くためには、この中から好きなものを選びなさい、と列挙している。この全項目については、『俳句の「場」としての...』の36ページから39ページに日本語訳を掲載してある。なお、ロバート・プロストの言葉「ルールのない詩歌とはネットのないテニスのようなものだ」と芭蕉の「初めは決まりを学べ」をあげ、正反対の矛盾するルールをも並べながら自分でルールブックをつくることを勧める。この全項目の中から「切れ」についてのルールを下記に引用する。

44. 曖昧さのためには句読点記号を用いない
45. すべての句読点記号を用いる
  - 「:」 停止
  - 「;」 半停止、あるいは休止
  - 「...」 述べられていないこと
  - 「,」 軽い休止
  - 「--」 同じことを他の言葉で言い換え(ダッシュ)
  - 「.」 完全停止
46. すべての行の先頭を大文字にする
47. 最初の語だけを大文字に
48. 英語のルールに則り、大文字にすべき語は大文字に
49. すべての語を小文字に
50. すべての語を大文字に

メールで投稿される俳句では「ダッシュ」は「--」(double hyphen)と表現する人も「-」(single hyphen)のままの人もある。この表記については、やや混乱している。

### 3. 最近の Nobo list での大文字、小文字と句読点の議論

句読点記号についてひさしぶりに議論が起こった。きっかけは、3月13日に投稿されたリストへの初参加者からの投句である。

Nobo#9216(Katrina Larsen)  
 The sun shines  
 On the pathetic inmates  
 At Ueno Zoo

これについて、即反応があった。Nobo#9217で「L1からL3の先頭を小文字に」というアドバイスである。この作者は、Nobo#9218で「初心者なので、小文字になければならない訳を教えてほしい」と質問をだす。これに続いてNobo#9243でHugh Bygottが「自作の詩はそのままに」ただし現代ハイクでは「句読点なし、小文字がファッションである」としてその背景を1960年代のハイクを引用しながら述べている。

Bygottは、1964年に日本航空俳句コンテストで優勝したJ.W.Hackettの英語ハイク

A bitter morning:  
 Sparrows sitting together  
 Without any necks.

と1963年のアメリカ俳句協会での優勝したN.Virgilio作品

Lily:  
 out of the water ...  
 out of itself.

を大文字と句読点を用いた例として引用し、しかしながら、句読点と終止符付のハ

イクは現代では優勝することはないだろうとも付け加えている。Hackett の作品では 3 行すべて先頭は大文字、切れを表現するために L1 を「:」で停止。L3 の「.」で完全停止。このような古典的なハイクの形式の原点は、R.H.ブライスの『HAIKU Volume 1』(The Hokuseido press, 1949)からはじまったもので 20 年以上にわたって影響を与え続けた。ブライスは同書第 3 章「HAIKU AND POETRY」で芭蕉の「古池や...」の句を次のように英訳している。

The old pond;  
A frog jumps in, -  
The sound of the water.

この英語翻訳俳句は、L1 を大文字ではじめ「;」で切れ、L2 も大文字で開始して「,-」で休みと切れを表現し、L3 は大文字ではじめ「.」で停止。さらに L2 の書き出しを L1、L3 より 3 文字程度左に寄せる形式である。ライクホールドによる英訳では、句読点記号がなくなり、すべて小文字になっていることから、比較すると時代の変遷がよくわかる。句読点は最小限度になり、すべて小文字というのが現代の傾向となった。古い英訳では、L3 はほとんどが「.」で停止か「?」または「!」で終わる形式となっている。

句読点記号が英語俳句に登場した由来を調べるには、ヘンダーソンの『AN INTRODUCTION TO HAIKU』(DOUBLEDAY, 1958)の芭蕉などの句の翻訳についての注釈を参考にするのがよい。「古池や」の句は、

Furu-ike ya kawazu tobi-komu mizu-no-oto  
Old-pond : frog jump-in water-sound

逐語訳であるが「切れ字」の「や」は「:」に変換されている。「枯れ枝に」の句の訳は、

Kare-eda ni karasu-no tomari-keri aki-no-kure  
Withered-branch on crow's settling-keri autumn-nightfall

「切れ字」の「けり」は、ここではそのまま「keri」となっている。この「枯れ枝に」の注釈中での英訳は本文(p.18)で、

On a withered branch  
a crow has settled --  
autumn nightfall.

となっている。「けり」は「--」として切れを表す。L1 の最初の文字が大文字で以下はすべて小文字であるが、L2、L3 と字下げをしているのは、ヘンダーソンのこの本でのスタイルの一つである。またこの本を通してすべての俳句の L3 に終止符がある。終止符の「.」がなくなったのは、L1,L2,L3 の先頭がすべて小文字で書かれるようになったのと同じ頃である。

切れ字は俳句にとって重要な意味を持つが、ヘンダーソンは、芭蕉の「古池や」の

有名な句の解釈がいくつかあることを示して、それぞれ別の英訳を与えている。次の二つである。

Old pond:  
frog jump in  
water-sound.

Old pond --  
and a frog-jump-in  
water-sound.

さて、興味深い例としては、Hackett の先ほどの日本航空のコンテストでの優勝句が、90歳の女性によって Haiku Quaterly という俳誌に次のような形で比較的最近投稿されたようだ。この俳誌の編集者が、Hackett の元の俳句を知っていたかどうかは不明である。

bitter morning --  
sparrows sitting together  
without necks

Hackett のと比較すると大文字を小文字に書き換え、句読点を最小限の形式に変換している。投稿した女性の年齢から推定して、オリジナルを知っていたとすれば、Hackett の句を現代的に書き換えたつもりかもしれない。わざと投稿して編集者の力量を計ろうとしたのだろうか。

#### 4. 日本語俳句と英語俳句の切れを比較する創作の試み

田中喜美代(Kim)が創作した日本語俳句と英語俳句を俎上に上げ、それぞれの「切れ」を原作者の立場で述べる。これらの俳句は、まず日本語で作り、それを本人が英訳しさらにネイティブ米国人に監修してもらったものである。協力したのは、リストの常連者であるアール・キーナー。

黒ずみし凱旋門や秋のパリ  
arch of triumph  
becoming blackish  
Paris in autumn

日：「や」切れ字により、凱旋門を強調。季語を座五に置き季節感を強調。  
英：一行目に名詞を置き、強調しながら二行目がそれを修飾。三行目に名詞を強調。日英同じような意味の俳句になっている。

虹色のエッフェル塔や秋暮色  
the Eiffel Tower  
rainbow-colored  
in the dusk of autumn

日：「や」切れ字、詠嘆、上五「虹色の」はエッフェル塔を修飾。

英：一行目名詞により軽く切れている。「や」の詠嘆の意味をだすためにダッシュを用いたいが、そうすると rainbow-colored との間が切れすぎるためダッシュを用いない。日本語でははっきり「切れ」があるが英語ではそれが無い。

秋憂ひあまりに青きパリの空  
melancholic autumn -  
sky over Paris is  
brightly blue

日：「秋憂ひ」という名詞に季語を含み上五に据えたことにより切れ、強調。

英：ダッシュで切れ。日英よく似た構成、「あまりに」で少し切なさに対応したつもり、英語で brightly でその意が伝わるか・・・

秋の昼饅えた匂いの石の街  
an autumn afternoon -  
the rows of stone houses  
smell turning sour

日：「秋の昼」という名詞に季語を含み上五に据えたことにより切れ、強調。

中七が座五名詞にかかっている。

英：ダッシュで切れ。三行目から二行目に修飾。

マロニエの実のたわわなり旧市街  
marronnier  
heavily laden with fruit  
along the old streets

日：「たわわなり」終止形で切れ、軽く詠嘆、実のたわわと旧と言う言葉で対比。

英：一行目に名詞を置き強調、日本語での切れとはすこしズレ。

## 5. まとめ

英語俳句の形式と切れについて、句読点を中心に述べてきた。目的の一つは、メーリングリスト宛てに送信されたメールから俳句を機械的な手続きによって抽出するために、英語俳句の L1、L2、L3 の構造が役に立つかどうかを調べることもあった。ブライスなどの初期の英語俳句は句読点が明解で機械解析は比較的やり易いものであった。しかし、今から 50 年以上前のブライスの時代と比べて英語俳句の世界は広がり変化した。各国の俳句協会の機関紙などを中心に紙媒体で出版されたものが現代では E-zine になろうとしている出版メディアの変化もある。我々が英語俳句のためのメーリングリストを運用するという試みを始めてから 10 年が経過した。HAIKU E-zine を発行するために~shiki という仮想の俳人をネットに生み出して 10 年、なんとかネット俳人をネットで自律させることが可能だろうか。

## 参考文献

Shiki team, 'The Shiki Internet Haiku Salon', シキチーム出版、1997年.

Shiki team, 'Shiki team からのメッセージ', シキチーム出版、1999年.

Shiki team, '俳句@インターネット', シキチーム出版、2000年.

墨岡、田中、別宮、ライクホールド、'俳句の「場」としてのインターネット、松山大学総合研究所、2003年.

R.H.Blyth, 'HAIKU Volume 1 Eastern Culture', The Hokuseido press, 1949.

H.G.Henderson, 'An Introduction To HAIKU', Doubleday, 1958.